i-農力だより

2017年春号（145号）

ごあいさつ ・・・・・・・・・・・・・・P.2

農家さん訪問記 ・・・・・・・・・・P.3

新農薬のご紹介 ・・・・・・・・・・P.8

ムシできない虫の話 ・・・・P.10

季節のご相談から ・・・・・・P.13

お知らせ ・・・・・・・・・・・・・・・P.14

かんたん♪おいしい♪旬レシピ ・・P.15

読者プレゼント ・・・・・・・・P.16

編集後記 ・・・・・・・・・・・・・・・P.16

ごあいさつ

住友化学株式会社
代表取締役 専務執行役員　西本　麗

春風が頬に心地よい季節となりました。本格的な農業シーズンを目前にひかえ、作業準備等でお忙しい日々をお過ごしの事と存じます。

さて、しばらくお休みをいただいていましたi-農力だより第145号をお届けいたします。これまで17年間皆様に支えていただいてきたi-農力だよりを、これからの日本の農業現場の皆様にとって、よりお役に立つ情報をお届けできるようリニューアルいたしましたので、引続きご支援の程よろしくお願いいたします。今後、新しい企画も立ち上げていく予定で、更なる内容の充実を図ってまいります。それに伴い、発行間隔を月刊から季刊へと変更させていただきます。

また、i-農力だよりのリニューアルに合わせて、i-農力サイトもリニューアルいたしました。従来のメニューを見やすくわかりやすく整理し、今後新しいコーナーも立ち上げていきますので、是非ご覧ください。

i-農力だよりまたはi-農力サイトの内容につきまして、お気付きの点やご要望等がございましたら、お気軽に弊社お客様相談室までご意見をお寄せください。

（お客様相談室ナビダイヤル；0570-058-669）

日本の農業を取り巻く環境が大きく変化する昨今でありますが、弊社は大規模化・省力化・低コスト化に資する技術・製品開発を進めるとともに、従来から愛用いただいている製品についても新製剤・混合剤等の新たな提案を行い、皆様にとって、今まで以上にお役に立てるよう努力してまいります。またグループ会社と共に取り組んでいます、農業経営を総合的にサポートする「トータルソリューションプロバイダー型ビジネス」やコメ事業を通じても、新たな取組みを行ってまいります。こうした取組みにつきましては、営業・技術普及担当者の活動だけでなく、i-農力だよりやi-農力サイトを通じても、タイムリーな情報発信に努めてまいります。

住友化学は、独自技術をベースに、より一層農家の皆様のための企業となるべく努力してまいる所存ですので、今後も弊社グループ及びi-農力だよりをよろしくお願い申し上げます。

「都留サニーファーム」の都留義久さん（右）とご長男の誠一さん

「期末在庫は残すな」が経営のポイント

朝からの雨がやみ、大分県宇佐市（大分県北部 国東半島の付け根に位置する市）は見事な青空と明るい日差しに恵まれた。目的地の都留義久さんの自宅近くには、全国に4万社ほどある八幡様の総本宮「宇佐神宮」がある。あのEXILEのメンバーもヒット祈願に訪れたパワースポットらしい。なるほど、急な天気の回復にもうなずける。クルマで自宅に近づいていくと、すでに家の前に出て奥様、ご長男とともに私たちをあたたかく迎えてくださった。

都留さんはご長男の誠一さんと一緒に23haの農場「都留サニーファーム」を管理されている。しかし、特徴的なのは、都留さんご夫妻とご長男の経営を分けて独立採算制にしている点だ。都留さんは水稲（ヒノヒカリ）、小麦、だいずで17haを経営、残りの6haは誠一さんの経営である。なぜ経営を分けているのだろうか。

「サラリーマンのように僕から給料をもらうのではなく、自分で汗水流して稼いだお金は自分の懐に入るようにしたんです。だってその方が農業やってる楽しさが味わえるじゃないですか」。誠一さんの作業を手伝わずに、一人でやらせて身体で覚えさせるのが都留さん流だ。口を酸っぱくしてご長男に指導する農業経営のポイントは「期末在庫は残すな」である。九州の中堅スーパーの店長を長年務めていた経験から、コストや無駄の低減には厳しい。キビキビとした歯切れのいい話しぶりにも、納得がいった。

経営は冷静な目線だが、
誠一さんへのアドバイスは欠かさない

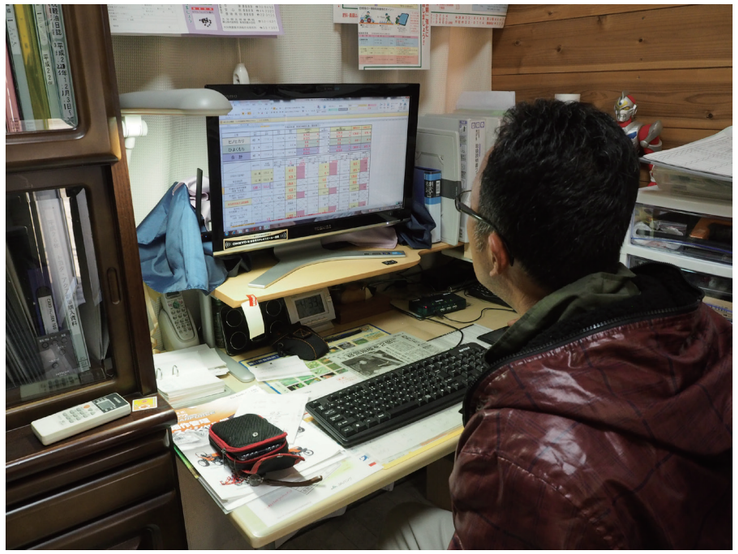
作業倉庫にはトラクターなど多くの農機が並んでいた

「期末になって肥料・農薬資材の在庫が残っていると、決算上の弊害もあるし、倉庫に置いておけば新しいものが手前に置かれて、在庫はどんどん奥の方に追いやられ、ついには忘れられた存在になる。だから、足りないぐらいに仕入れて、追加で発注した方が効率がいいんです」

顧客から値切られないようにするには!?

以前、兼業農家だった都留さんは、スーパーの店長を 17 年務めたのち、靴の問屋、建築関係などいくつかの職業を経験し、農業と二足のわらじで身を粉にして働いた。兼業時代の後半では、日中に土木作業、夕方から深夜までアルバイト、休日に農業というハードスケジュールをこなしていたが、それでも生活は苦しかったという。転機が訪れたのは、平成 19 年――父親から農業経営を委譲されたのがターニングポイントとなった。

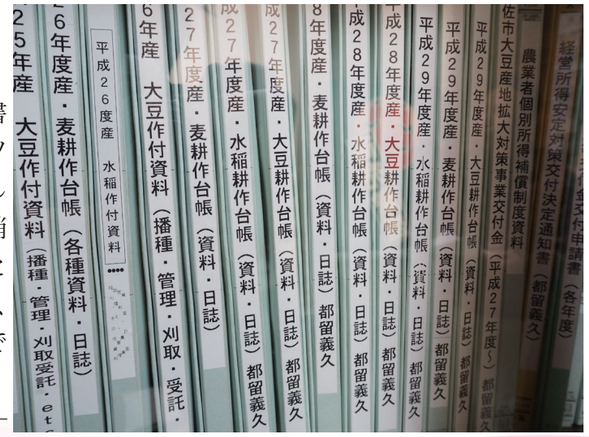
その年を機に都留さんが始めたのが、パソコンで作業日誌を管理していくこと。圃場の土壌診断をきめ細かく行うとともに、地権者、面積についての情報や、育苗・田植え・出穂・収穫のデータ、施肥成分・量、農薬散布量・回数などを圃場 1 筆ごとに入力していく。経費を明確にして 10a あたりの生産コストを算出し、利益を明確に把握するためだ。



事務所のパソコンで次の作業予定を確認。
工程はすべてデータで管理されていた

「意外と、生産コストを把握していない人が結構多いんです。赤字でもコメだけはつくらないといけないと思っている人が多い（笑）。普通作だったら、15ha 以上やらないとご飯が食べられませんからね」

パソコンで管理をするようになったのは、作業日誌だけではない。取引先ごとの取引明細や売上台帳などのデータ管理とともに、請求書や納品書、領収書などもデータ化して農業経営に役立てているのだ。「お客様にお渡しする請求書や領収書などは、専用のアプリケーションソフトを導入し、きれいに印刷できるようにしてあります。以前は手書きだったせいか、『消費税分をまけてほしい』とか値切られることが多い（笑）。プリンタで印字されていると、企業感や信頼感も高まるんでしょうね、今では値切られることはなくなりました」。



作業日誌、取引台帳などはデータ化することで、
手書きよりも対外的な信用度が高まるという

何をつくって、どこにそれを売るのか――都留さんは、常にそれを考えて農業経営に臨んでいるという。作業日誌などのパソコン管理とともに、都留さんが当初取り組んだのが、販売先の見直しだった。小麦とだいずは全量が農協出荷だが、水稲は米卸会社と自宅での直販に分けてリスク分散している。

毎年、新米の時期になると、都留さんのヒノヒカリを求めて遠方からも直販の顧客がやってくるそうだ。米は多収になればなるほど味が犠牲になりがちなので、10a あたり 7 俵しかとらない――そんな栽培をずっと貫いてきた。

「このあたりの圃場は赤土が多い。赤土の圃場で栽培した米は食感がいいし、冷めても美味しいんです。それで、直販のお客様に気に入っていただき、リピーターも結構増えました」

もう 10 年以上続いている新米の直販だが、「3 年前に一度失敗をしたことがある」と都留さんはその当時を振り返る。

「今から 3 年前にヒノヒカリに代わる多収性の品種を 1 年だけつくったんですが、これが大失敗だった（笑）。土地に合っていなかったのか、僕のお客様のニーズに合わなかったのか、すごく不評だったんです。その翌年から、リピーターだったお客様が離れて行ってしまった。いったん離れたお客様を取り戻すのはすごく難しいんです。これはいい教訓になりましたね」

10m にも及ぶ のり面の除草が課題

のり面用草刈機。この他、畦畔用に背負い式など複数の草刈機をフル活用している

都留さんが管理する圃場周辺は中山間地のように、のり面が 4 ～ 6m もあり、10m に及ぶ場所もあるそうだ。のり面の雑草はカメムシなどの害虫のすみかになるのはもちろん、外観の問題が一番大きいのだという。2m ぐらいまでは機械刈りで、そこから上は手取り除草と除草剤散布を組み合わせて対応している。作付面積が増えると、のり面の除草面積も増えるので、その「除草の労力」をいかに省力するかが目下の課題である。一人で 1 日 12 時間以上、草刈りをしていることも珍しくないそうだ。

「雑草を放置しておくと、地主の方や周辺の方々からひんしゅくを買いますからね。それと、除草は圃場管理のシンボルですから、放置するわけにはいかないんです」

除草以外にも、都留さんが苦労されているのが、田んぼに引く水の問題である。水稲の時期になると用水路に水が送られて来るが、夜 10 時にならないと水が来ないので、水を引く作業はどうしても夜間になるそうだ。

「取水口のバルブを操作して、自分の田んぼに水を引くんですが、バルブ周辺によくマムシがいるんです。だから、いつもマムシ対策の準備をしていく（笑）。一晩で 6 匹つかまえたこともありますよ」。

リスクの伴う作業なのに、都留さんの表情からは余裕さえうかがえる。これも経験のなす技なのだろうか。

生き残りのカギは「畑地化」

「今年は茶豆、青だいず、黒だいずと 3 種を試作する予定」と都留さん

これから普通作農家が生き残っていくためには、何が必要なのだろうか。そのカギの一つは畑地化にある、と都留さんは考える。

「水稲はこれ以上生産コストを下げられない。面積払の交付金も平成 30 年には減額される予定なので、水稲のウエイトを減らしてだいずにシフトしていこうと思っています。それと、比較的水はけのいい水田を選んで畑地化をして、高収益な作物へ転換するという施策も必要ですね。土壌改良とその土地にあったきめ細かい施肥設計をしたうえで、安定した収量がとれるようにするんです」

現在、都留さんは 6 ～ 7 月収穫のえだまめを新たに手がけるべく、圃場の準備中だ。肝心の販売先だが、以前勤めていたスーパーの人脈で、すでにスーパーの売り場を確保しているという。

作業受託組織を立ち上げて、若手を増やす

限界集落という言葉が最近取り沙汰されているが、自分の集落には若手がほとんどいない。だからもっと若手を増やさなければ――都留さんは今、地域の未来について考えている。その青写真はこうだ。農地を管理している人間が、新規就農する若手に筆を分ける。自分の農園とは別に仲間と共同で作業受託組織を立ち上げ、農機は自分で購入せずに組織から借りる形に。農作業は仲間と共同で行い、販売収入に応じて各自が収入を受け取るようにする。そうした若手の就農者が増えれば、地域を守ることができるのではないか。

次の世代のためのビジョンを描く都留さん。宇佐神宮の神様は、そんな地域の若きリーダーを見守ってくれているに違いない。

「若い人同士が一緒に組んで宇佐市の農業を盛り上げてほしい」
誠一さんをはじめ次世代への想いは熱い

新農薬のご紹介

箱大臣®粒剤

紋枯病

イネミズゾウムシ

いもち病

イネドロオイムシ

特長

一 紋枯病に対する優れた効果

二 いもち病に対する安定した高い効果

三 水稲の主要害虫に対する優れた効果

農林水産省登録 第23890号

有効成分：
クロチアニジン・・・1.5%
イソチアニル・・・2.0%
フラメトピル・・・4.0%

適用病害虫および使用方法

2017年1月11日現在の登録内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
稲（箱育苗）	いもち病 白葉枯病 紋枯病 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ フタオビコヤガ	育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5ℓ）1箱当り50g	移植7日前～移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する

クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	4回以内（移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内）
イソチアニルを含む農薬の総使用回数	3回以内（移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内）
フラメトピルを含む農薬の総使用回数	2回以内（育苗箱散布は1回以内）

医薬用外劇物

スタウト®パダン® 箱粒剤

水稲育苗箱用殺虫殺菌剤

特長

1 いもち病と水稲初期害虫に優れた効果

2 耐性菌出現リスクの低い抵抗性誘導剤

3 パダンのユニークな作用機作

いもち病

イネドロオイムシ

イネミズゾウムシ

農林水産省登録 第23893号
有効成分：イソチアニル・・・・・・2.0%
カルタップ塩酸塩・・・6.5%

適用病害虫および使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	カルタップを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲（箱育苗）	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ（ごま葉枯病菌） 内穎褐変病 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ ニカメイチュウ	育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5ℓ）1箱当り50g	移植前日～移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する	6回以内（種もみ浸漬は1回以内、床土への混和、育苗箱への処理および側条施用は合計1回以内）	3回以内（移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内）

2017年1月11日現在の登録内容

詳しくはi-農力サイトへ

ムシできない虫の話

フーン そうなんだ！

その④　ヒメトビウンカとイネ縞葉枯病

技術顧問　清水喜一

「害虫の名前を知る方法」シリーズ続編です。今度は特にテーマを決めないで、これまでの経験の中から皆さんがふーん、そうなんだと少しは感心し、興味を持ってもらえるような話題を提供したいと考えています。

第４回目はヒメトビウンカが媒介するイネ縞葉枯病についてご紹介します。

ヒメトビウンカ

形態

ヒメトビウンカについては「害虫の名前を知る方法」シリーズその 13「よく似た害虫類の見分け方その７」でご紹介しました。ウンカ科ヒメトビウンカ属の昆虫で、水稲を加害するウンカの中では最小です。雄成虫にはほとんど変異がなく、胸の背中側が黒一色なので他のウンカと区別するのは簡単です（写真 1）。雌成虫は色の薄いものから黒っぽいものまで、変化に富んでいます（写真 2、3）。

写真 1：
ヒメトビウンカ雄成虫

写真 2：
ヒメトビウンカ雌成虫 1

写真 3：↑
ヒメトビウンカ雌成虫 2

写真 4：↓
セジロウンカ雌成虫

色の濃い個体は、一見セジロウンカ（写真 4）に似ていますが、体長・頭部の突出程度・胸部背中側の白い部分の幅が違うので区別できます。トビイロウンカのように短翅雌成虫が発生することもあります（写真 5）。幼虫での分類は簡単ではありません。「ヒメトビウンカの成虫が多くいるところの幼虫はヒメトビウンカだろう」と推測するのが無難だと思いますが、払い落とし等ではクリーム色に見える個体が多いようです（写真 6、7、8）。

写真 5：
ヒメトビウンカ短翅雌成虫

写真 6：
ヒメトビウンカ終齢幼虫

写真 7：
ヒメトビウンカ若齢幼虫

写真 8：
粘着板にたたき落とされた幼虫

生活史

ヒメトビウンカは水稲の収穫後に水田近くの雑草地へ移動して産卵します。短日条件下においてイネ科雑草で孵化した幼虫は３～４齢で休眠状態となってその場で幼虫越冬します。第１回成虫の発生時期は早く、翌年のまだ水田が作付けされていない３月には羽化が始まります。この時に水稲が栽培されていればすぐに水田に侵入すると考えられますが、まだ餌となる水稲はありません。この成虫はイネ科雑草などに産卵して一世代を送りますが、近くに麦畑があるとそこに移動して産卵、増殖します。ヒメトビウンカにとって麦は好適な飼料です。５月になると麦畑で幼虫の発生が始まり、６月になると羽化した第２回成虫が水田に侵入を始めます。麦が収穫されると行き場所が無くなった成虫が、一斉に水田に移動することになります。水田では３～４回の発生を繰り返し、収穫後は雑草地に移動して産卵、幼虫が越冬するという生活史を送っています。

また、セジロウンカやトビイロウンカと同様に、中国大陸からの飛来も確認されています。

イネ縞葉枯病

本病は、ヒメトビウンカが媒介するイネ縞葉枯病ウイルス（Rice stripe virus、RSV) が原因となる稲のウイルス病で、1960 年から 1980 年代にかけて全国的に大流行しました。その後発生が少なくなり、2000 年頃にはほとんど見られなくなったようですが、2008 年頃から全国的に発生が目立つようになり、現在では関東、近畿、九州で稲の重要な病害となっています。

写真 9：
イネ縞葉枯病の初期症状

無毒健全なヒメトビウンカがイネ縞葉枯病感染株を吸汁することによって、ウイルスを獲得して保毒虫になります。このウイルスはヒメトビウンカの体内で増殖し、吸汁された稲がウイルスに感染します。また、ウイルスは卵を通して次世代の幼虫に受け継がれます（経卵伝染）。

麦畑で増殖した成虫が水田に飛来して稲を吸汁しますが、この時の成虫が保毒虫であれば稲はウイルスに感染します。保毒雌成虫が産卵し、その後孵化した幼虫は経卵伝染で保毒虫になっています。この幼虫に吸汁された周囲の株もイネ縞葉枯病に感染してしまいます。

稲の生育初期に発病すると分げつが少なくなり、枯れてしまうこともあります。それ以降の発病では新葉が細くなって巻いたまま垂れ下がったり、縦縞状の退緑斑が発生します（写真 9）。発病した茎では止め葉が縞状に退色したり、出穂異常となって出穂しなかったり、しても出すくみ穂になってしまいます（写真 10、11）。出穂期以降の感染では発病することは少なくなりますが、収穫時まで発病しなかった株でも再生株には病徴が現れ、感染源となります（写真 12）。再生株の発病は水田内で増殖したヒメトビウンカによって引き起こされるので、集中的に発生することが多いようです（写真 13）。

写真 10：
縞葉枯病による出すくみ穂

写真 11：
出すくみ穂のいろいろ

写真 12：
再生株の発病

写真 13：
再生株の発病状況

防除の考え方

イネ縞葉枯病はウイルス病であり、発病した後では手立てがありません。防除は媒介虫であるヒメトビウンカの密度を低下させることを基本としなければなりません。特に６月上中旬の水田飛来虫と次世代幼虫の防除が肝心となります。

耕種的防除

- 移植は、ヒメトビウンカ飛び込み直前の５月中旬から６月上旬を避けて行う。
- 再生株を含めて発病株は伝染源となるので早めに処分する。
- 越冬地となるイネ科雑草地を少なくする。
- 抵抗性品種を作付ける。抵抗性品種の多くは、感染してもウイルス濃度を低く維持して発病しにくくなりますが、ヒメトビウンカの増殖を抑えることはできません。ヒメトビウンカの防除は必要となりますが、地域全体で対応することで保毒虫率の低下が期待できます。

化学的防除

- ６月上中旬に飛来する飛び込み成虫を対象に薬剤を育苗箱施用するのが最も一般的な化学的防除法です。
- 薬剤の育苗箱施用をしなかったときは、成虫飛来期の６月上中旬に本田防除を実施します。
- 育苗箱施用された薬剤の効果は移植後時間の経過と共に低下します。移植時期が早ければ発病程度が軽くなる傾向はありますが、育苗箱施用薬剤の高い効果も期待できません。育苗箱施用を実施し、移植時期が早かった圃場においても、多発生したときには飛来成虫対象の本田防除を考えなければなりません。
- 飛来量が多く、飛来成虫の防除だけで十分な効果が期待できないときには、次世代幼虫に対して６月下旬～７月上旬の追加防除が必要となります。

季節のご相談から

お客様相談室

１．福井県　農家の方

Q：今年から鉄コーティング種子を使用した直播栽培を導入します。
「オサキニ１キロ粒剤」の効果的な使用方法を教えてください。

A：オサキニ１キロ粒剤の直播栽培での処理は、は種時・は種直後～ノビエ３葉期までです。直播栽培では水稲の生育を確保するため、は種後から２週間程度は入水しませんので、その期間本剤の効果は発揮されません。稲が１葉期程度になると入水し、この入水によって薬効が発揮されます。は種から入水までは雑草が発芽し生育しますが、ノビエが３葉期になるまでに入水すれば効果は十分発揮されます。本剤は直播水稲に限らず移植水稲でも使用可能で、WCS や飼料用米にも使うことができます。

２．新潟県　農家の方

Q：育苗箱用薬剤は多くの種類が上市されていますが、住友化学としてのお薦め薬剤を紹介してください。

A：「箱王子粒剤」をお薦めします。本剤は、イソチアニル：いもち病や白葉枯病など、クロチアニジン：イネミズゾウムシ、イネドロオイムシなどのコウチュウ類、ウンカ・ヨコバイ類、スピネトラム：フタオビコヤガ、コブノメイガ、ニカメイチュウなどのチョウ目害虫に有効な薬剤の３種混合剤です。使用時期は、育苗土壌混和・は種時散布・育苗期間中～移植直前散布など、作業労力の配分を考慮して使うことができます。その他、箱いり娘粒剤：イソチアニル・クロチアニジン・スピネトラム・フラメトピル（紋枯病）及び、箱大臣粒剤：イソチアニル・フラメトピル・クロチアニジン、スタウトダントツ箱粒剤：イソチアニル・クロチアニジンもお薦めです。地域の発生病害虫に応じた薬剤を取り揃えています。

３．兵庫県　農家の方

Q：たまねぎのべと病防除としてダコニール１０００を使用しています。住友の薬剤で作用機作が異なるべと病防除薬剤はありますか？また、灰色かび病に有効な薬剤はありますか？

A：たまねぎのべと病は昨年も愛知県以西で 11 回の注意報が発令されましたが、今年も既に６件（3/6 現）の注意報が発令されており、多発が予想されます。弊社のべと病防除剤としては、ダコニール１０００の他にナレート水和剤および「ベネセット水和剤」があります。また、灰色かび病防除剤としては、ベンレート水和剤およびスミレックス水和剤があります。今後、べと病をはじめ病害は発病に適した気温になり、降雨により感染し多発が予想されますので定期的な散布を心がけてください。また、たまねぎは薬剤が付着しにくいので展着剤を加用してください。

岩瀬農業高校卒業式

昨年「農業高校の今」と題し、5 回にわたりレポートしました「福島県立岩瀬農業高等学校」の卒業式が、2017 年 3 月 1 日（水）厳かに執り行われました。

卒業生は 214 名。進学希望者（東京農業大学はじめ、農業短期大学、調理・製菓・工業系の専門学校などに進学）や就職希望者（食品・電気機器などの製造系・農協・建設・公務員などに就職）それぞれが希望に胸を膨らませつつ、3 年間過ごした学び舎を後にしました。

お客様相談室お休みします

勝手ながら下記の期間、お客様相談室業務をお休みさせていただきます。期間中は留守番電話となり、業務再開後順次回答いたします。お急ぎの方にはご迷惑をおかけしますが、何卒ご了承ください。

休業期間：2017 年 4 月 28 日（金）17 時～ 5 月 8 日（月）9 時

業務再開：2017 年 5 月 8 日（月） 9 時～順次ご回答

なお、中毒に関する緊急のお問い合わせは下記へお願いいたします。

公益財団法人 日本中毒情報センター

中毒 110 番	一般向け 問い合わせ料無料	医療機関専用有料電話 （一律 2,000 円）
大阪 （365 日、24 時間対応）	072-727-2499	072-726-9923
つくば （365 日、9 時～ 21 時）	029-852-9999	029-851-9999

かんたん♪　おいしい♪

旬レシピ

おもてなしサロン「Nao’s Style」を主宰している大井直子です。
旬のお野菜を使った簡単で美味しいレシピをお届けしたいと思います。
皆さまの食卓がさらに華やかに、楽しく笑顔いっぱいの「食空間」になりますように♪

鶏のうまみたっぷりの炊き込みご飯を旬のたけのこの香り、長ネギの甘味とともに

春野菜**「たけのこ」**を使った炊き込みごはんレシピ

「鶏肉とたけのこと長ネギの炊き込みごはん」

［材料］　３合分

白米・・・・・・２合半
もち米・・・・・半合
たけのこ・・・・1/2 本
長ネギ・・・・・１本
鶏もも肉・・・・２枚
酒・・・・・・・大さじ２
白だし・・・・・大さじ５
だしの素・・・・大さじ１

作り方

①たけのこは食べやすい大きさに、長ネギは５cm 幅にカットする。
②炊飯器に白米、もち米を入れ研いで３合の線まで水をはり、そこから大さじ８の水を抜く。
③②に調味料、たけのこ、長ネギ、皮目を上にした鶏肉をのせて炊く。
④鶏肉を取り出し食べやすい大きさにカットして炊飯器に戻し入れ蒸らす。
⑤すりごま、大葉、刻み海苔などをトッピングする。

春野菜**「豆苗」**を使ったごはんのすすむレシピ

「豆苗の塩昆布炒め」

［材料］　豆苗１袋分

豆苗・・・・・・１袋
細切り塩昆布・・２つまみ
ごま油・・・・・大さじ２

作り方

①豆苗は根の部分をカットして洗って水けを取る。
②フライパンを温めごま油を引いて①を炒める。
③②がしんなりしたら塩昆布を入れて混ぜ合わせる。

ごま油で炒めるだけの簡単レシピですがとっても美味しい一品です

★プロフィール★

大井 直子さん

福岡在住。大手総合商社退社後、2009 年からサロンを主宰。料理やテーブルコーディネートのレッスンを定期的に開催する人気料理研究家。
2017 年２月にレシピ本「いつでもかんたん おもてなし」を出版。
◆ CAJ 認定生活空間コーディネーター
◆豆腐マイスター養成講座認定講師
◆食品衛生責任者
Nao’s Style（ブログ）
http://ameblo.jp/naonao-mm/

読者プレゼント

これまでのプレゼント

「農家さん訪問記」で訪れた地方の特産品（お菓子や加工品）を、愛読者の方々に抽選でプレゼントします。中身は編集メンバーが選んだ詰め合わせで、何が届くかはお楽しみ！
たくさんのご応募お待ちしています！

応募期間：2017 年 4 月 21 日（金）～ 5 月 21 日（日）
応募条件：本誌のご意見・ご感想を 50 字以上お寄せいただいた i- 農力会員様
賞品：大分県の特産品詰め合わせ
当選者数：３名

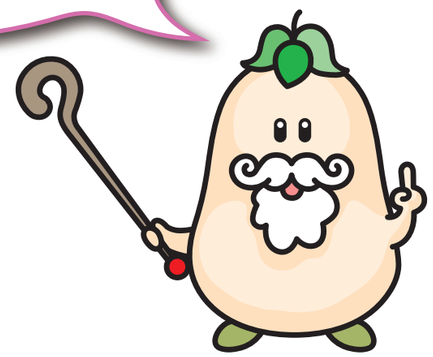
ご応募はこちら

編集後記

日本の農業を取り巻く環境が大きく変わろうとしている状況で、農家さんもこれまでの手法を変え、積極的に新しいことに取り組み、生き残りを図っていることを、今回の取材で肌で感じました。都留さんのようにこれまでの経験だけでなく、様々な媒体から情報を収集し、IT 技術も柔軟に取り入れながら日々進化している様子は、今後の農業の未来に明るい希望があることを教えてくれました。これからの農業は、おいしい作物を作るだけでなく、生産コスト削減、消費者ニーズの洗い出し、ブランディングや広告宣伝、販売手法、人材育成といった経営面のスキルの高さもますます問われてくるでしょう。

さて、長らくお待たせしておりました本誌発行を再開するにあたり、弊社も今後の農業の在り方を再度見つめ直し、今の農家さんが何を知りたいか、我々が何をご提供できるかを考えました。情報が氾濫する現代で、必要な情報を的確に、タイムリーにお届けできるよう誌面を一新し、同時に i- 農力サイトもデザインをリニューアル、会員メニューを充実させました。これからもっと農家さんのお役に立てる情報発信ができるよう、日々進化してまいります。

次号（夏号）は
7 月の発行予定じゃ♪



2017 年 4 月 21 日発行　i- 農力だより 春号　通巻 145 号
発行人／玉置 昌宏　編集人／太田 有香
発行／住友化学株式会社　アグロ事業部

大地のめぐみ、まっすぐ人へ
SCG GROUP
住友化学
〒104-8260 東京都中央区新川2丁目27番1号
お客様相談室 0570-058-669
農業支援サイト i-農力 https://www.i-nouryoku.com